

講義④

「信州地域史料アーカイブおよび各地のデジタルアーカイブ事例」

講師：TRC-ADEAC株式会社
代表取締役社長

田山 健二

1 ADEACとは

東京大学史料編纂所社会連携研究部門「図書館等所蔵資料の調査・整備研究」の成果に基づいたデジタルアーカイブの検索・閲覧を行なうためのシステムで、TRC-ADEAC株式会社が制作・運営し、プラットフォームを提供している。

2 信州地域史料アーカイブとは

NPO長野県図書館等協働機構（長野県図書館協会）の理事長である宮下さんが、県内の埋もれた史料をネット上で公開したい、さらに現代語訳も付けたいとのことで、長野県下の図書館はじめ、博物館・文書館等が所蔵する貴重な地域史料100冊をピックアップして順次デジタル化を進め、「ADEAC」で公開を始めている。現在公開中の資料は17点である。

*NPO長野県図書館等協働機構

長野県図書館協会を母体として平成25年2月に設立され、事業に賛同する学識者、専門家、市民等が参加して、県立図書館はじめ、市町村図書館、県立歴史館、文書館、博物館等と連携、協働して事業を推進している。

3 信州地域史料アーカイブの魅力

①現代語訳がついている ②原本を手にとるように読める ③画面（字）が大きくなるので読みやすい ④原本と翻刻・読み下しを並べて見られる ⑤当時の遺跡や挿画などは現在の画面で見られるものもある ⑥キーワード検索をすれば本文、刊本、見出しがすぐに出てくる ⑦見ているページだけでなく全てのページが検索できる ⑧埋もれている資料が24時間誰でも見ることができる

4 事例紹介

(1) 信州地域史料アーカイブ

①震災と災害の記録『むしくら日記』では現代訳と翻訳の事例を紹介。

(2) 善光寺関連コンテンツ

平成26年度文化庁の助成により、御開帳を記念してアーカイブを作成。

(3) 長野県立歴史館「信濃史料」

長野県に関する考古資料情報と、古代から江戸時代初期までの古文書などの史料を活字に翻刻し、年代順に編集した30巻32冊、約18,000ページに及ぶ資史料集。平成26年度、文化庁の補助金を活用し、デジタル化。年代順に出来事を記した網文と、活字化した翻刻文の版画面像をデジタル化し、網文に含まれる人名・地名や出来事あるいは年代などで史料の翻刻文を検索できるようにした。誰でもインターネット経由で信濃の古代・中世～江戸時代初期に関する史料の翻刻文を見ることができるようにし、今後の歴史研究や教育に役立てていただけたらと考え公開している。「信濃史料」では本文閲覧、キーワード検索、年表検索を紹介。

(4) 横断検索の事例

キーワード「善光寺」で横断検索した事例紹介

①高根沢町史

②延宝金沢図（石川県立図書館）

事例集も作ってあるので、様々な使い方がよくわかるようになっている。実際に使ってみてほしい。



(講義中の田山講師)